

精神・神経系疾患

分野責任者 古 都 規 雄
学年 6 学年

I. 前 文

「精神・神経系疾患」は「脳・神経」、CCなどで学んだ知識を総合的にそして実践的にするための講義からなる。本講義では医師として必要な知識を集中的に講義するが、神経系講義の総括でもあり、積極的学習態度をもって講義に臨むことを希望する。

II. 学修の到達目標

精神・神経系疾患の医学生としての最終的な知識の整理、実践的には系統講義、CCなどで取得した知識・技能の十分な整理・把握を行い、医師国家試験・初期臨床研修に臨めることを目標とする。

III. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（各回1時間）

系統講義、CCなどで取得した知識・技能の十分な整理を行うに対し、自らの疑問点を整理し講義に臨む。

事後学習（各回1時間）

講義内容に準拠した国家試験問題などに回答し、自らの欠点を把握・補強する。

IV. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))

2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	7	14	金	2	脳卒中・頭痛のKeyPoints	内科学(神経) 竹川英宏 辰元宗人	1
2		14	金	3	変性疾患・脱髄性疾患のKeyPoints	内科学(神経) 鈴木圭輔 国分則人	1
3		14	金	4	脳腫瘍	脳神経外科学 宇塚岳夫	1
4		14	金	5	外科的治療の対象となる脳血管障害	脳神経外科学 河本俊介	1
5		14	金	6	精神科症状学 気分障害 統合失調症	精神神経医学 古都規雄	1
6		18	火	1	児童・思春期精神障害 物質依存 病床 精神病 器質性疾患(認知症) 1-A-①②③④	精神神経医学 古都規雄	1

V. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

客観的試験、出席及び授業態度により総合的に評価する。

VI. 医師国家試験出題基準 (平成30年版) における区分

総論 (I 保健医療論) -5-F-①

総論 (VI 症候) -8-A~O

総論 (IX 治療) -2-F-①

- 各論（Ⅱ精神・心身医学的疾患）-1-C
- 各論（Ⅱ精神・心身医学的疾患）-1-E-①②
- 各論（Ⅱ精神・心身医学的疾患）-2
- 各論（Ⅱ精神・心身医学的疾患）-5-A～K
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-1-A, B, C
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-2-A, B, C
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-4-A, B, C
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-4-H
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-6-C

Ⅶ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

オープンオフィスによる個人面談。

Ⅷ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

六
学
年